

2019年度 自己点検・評価シート

学習センター運営委員会

基準7 学生支援

\*各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>② ●学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。 ○学生の「修学」に関する支援・学習に関する相談体制の整備</p>	<p>①現状説明 【体制】 ◆学習センターでは、専任教員10人が当番制で週1コマずつ滞り、学習相談に対応している。 ◆学習センターでは、英語学習アドバイザーが毎日10:40~16:50まで待機しており、英語や留学に関する相談に対応している。(1日10コマ) 【利用促進】 ◆相談体制についての告知を、履修登録期間の学習相談会場でのチラシ配布、月刊「学習センターだより」、看板、パンフレットスタンド、学生ポータルサイト、電子掲示板等で行っている。 【過年度実績】 ◆学習相談 2018年度105件、2017年度108件 ◆英語学習カウンセリング 2018年度1,177件、2017年度1,087件 ②長所・特色 ◆相談員は各教授会から1名以上出ている。 ◆相談員はオープンな自習スペースに滞在しているため、個別の研究室を訪ねることなく、気軽に相談できる。 ◆学生の希望や必要に応じて、ブース形式の個別相談スペースを利用して相談することができる。 ③問題点 ◆学習面の見直しの必要な学生が必ずしも自主的に学習センターに足を運んで学習相談を利用するわけではない。</p>	<p>①2019年度以降の達成目標 (a)学習相談対応件数について前年度を上回り、一定以上を達成する。 (b)英語学習相談対応件数について、例年レベルを達成する。 ②達成度を測るための客観的な指標 (a)学習相談対応件数110件以上。 (b)英語学習相談対応件数1,100件以上。</p>	<p>&lt;①2019年度の取り組みとその成果&gt; 学習相談対応件数228件(2018年度105件)、英語学習相談対応件数1,184件(2018年度1,177件)。英語学習相談では、特に1年生による利用が496件と2018年度の277件を大きく上回った(内容は留学やTOEIC対策に関するものが多い)。 &lt;②2019年度の取り組み後の問題点(課題)&gt; 学習相談件数 2019年度はTKUポータルでの呼びかけを1学期から定期的に行っており、積極的な学習相談が増え、相談件数が大きく上回った。228件(2018年度105件)</p>	A	<p>◆「学習センター利用統計(2019年度).xlsx【月次報告】」【資料1-1】、「学習センター利用統計(2018年度).xlsx【参考】前年度データ」【資料1-2】 ◆「英語学習相談者リスト2019年度」、「英語学習相談者リスト2018年度」【個人情報を含むためデータにて学習センター保管】 ◆「月別集計表」【大量であるため学習センター保管】</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>
<p>①⑦ ●学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>①現状説明 ◆毎日の自習者・窓口相談者・学習相談者・講座参加者・見学者の数を記録し、毎月統計をまとめている。 ◆過去の参加実績等をもとに講座やイベント等を企画し、学習センター運営委員会にて検討の上、実施している。 ◆講座やイベント実施時は毎回、参加者にアンケート調査を行い、満足度や感想・要望等を確認し、その後の企画の参考にしている(2018年度平均回収率92%、2017年度平均回収率76%)。 ◆毎年1月頃、学習センター利用学生から「新入生へのメッセージ」として、学習センターの利用法を書いてもらい、学習センターの利用実態に関する情報を集めている。 ◆毎年3月、「学習センター全体懇談会」を開催し、学習センターの活動に関わる教職員及び英語学習アドバイザー、常連学生に参加してもらい、1年間の総括を行っている。 ◆毎年、前年度の活動実績を『学習センター活動報告』にまとめ、冊子及び電子データを学内に配付している。 ◆1年間の学習センターの活動について、翌年度の学習センター運営委員会及び事務局会議にて報告している。 ②長所・特色 ◆講座やイベントの参加者アンケートは無記名であるため、正直な意見や感想を集めやすい。 ◆日頃から多様な学生に直接接している教員運営委員や英語学習アドバイザーから、学生の学習支援ニーズに関する情報を得ることが可能である。 ③問題点 ◆学習センターに関心のない学生は、学習センターを利用しないため、新たな意見等を集めることが難しい。</p>	<p>①2019年度以降の達成目標 (a)講座アンケートの回収率を一定以上に保つ。 (b)アンケートの満足度回答「はい」及び「大体」の割合を一定以上に保つ。 (c)学習センターの活動に関わる教職員や利用学生の意見等から、学習支援のニーズを探る。 ②達成度を測るための客観的な指標 (a)講座アンケート年間平均回収率80%以上。 (b)満足度回答「はい」及び「大体」の合計平均90%以上。 (c)学習センターの活動に関わる教職員や利用学生の意見等をもとに、学習支援の改善を実施する。</p>	<p>&lt;①2019年度の取り組みとその成果&gt; ◆実施講座97回(2018年度91回)、講座アンケート回収率92%(2018年度92%)、満足度回答「はい」及び「大体」の合計99%(2018年度96%)。 ◆専門科目を学ぶ土台となる、知的受け皿を大きくする本、知的振り幅”を広げられる本を紹介する「読書で鍛える『TKUベーシック力』講座」を新たに実施した。(全4回、学生計22名参加) ◆学生のコミュニケーション力向上に関する講座として、「メールのマナー講座」を4回実施した。(全4回、学生計53名参加)(2018年度全2回、学生計26名参加) ◆英語学習アドバイザーからのTOEIC対策教材のニーズがあるとの情報に基づき、TOEICの教材を増やしたところ、貸し出し件数が多い。2019年度238件(2018年度264件)。 ◆利用学生の要望に応え、古新聞・古雑誌を誰でも自由に持ち帰れるよう提供し始め、記事の読み比べ等に活用されている。 &lt;②2019年度の取り組み後の問題点(課題)&gt; ◆利用学生や教員運営委員及び英語学習アドバイザーから、学生の学習支援ニーズに関する情報を得るためには、日頃から意識して情報収集を行う必要がある。</p>	A	<p>◆各講座のアンケート【大量であるため学習センター保管】 ◆「学習センターイベント報告(2019年度)」【資料2-1】、「学習センターイベント報告(2018年度)」【参考】前年度データ【資料2-2】 ◆KIHACHIRO文庫貸出簿【個人情報を含むためデータにて学習センター保管】</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

基準11 教学ビジョン(4つのクオリティ)

\*各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>④ ●教学ビジョンの実現に向け、サポート・クオリティを向上させる取り組みが行われているか ○各組織の長所・特色となるような取り組みの実施</p>	<p>①現状説明 ◆学習センターでは、聴覚障がいのある学生のためのノートテイカーの配置とサポートを行っている。 ◆学習センターの窓口は、学内の「なんでも相談窓口」として、外国人留学生を含む、学部学生からの各種相談に対応している。 ◆学習センターでは、専任教員相談員10人が当番制で、外国人留学生を含む、学部学生からの学習相談に対応している。 ◆学習センターは、学生時代に身に付けるべき基礎力や学習技能等を紹介した初年次用教材を作成し、新入生全員に配付している。</p> <p>②長所・特色 ◆学習センターは、静かに自習できるスペースのほか、会話のできる学習スペースを提供しており、外国人留学生とその学習チューター(本学学部生)の相談にも活用されている。</p> <p>③問題点 ◆ノートテイカーの人材不足により、理想的な配置(各科目3人)が困難な場合がある。</p>	<p>①2019年度以降の達成目標 (a)情報保障の必要な授業にノートテイカーを配置する。 (b)初年次生用教材を改訂する。</p> <p>②達成度を測るための客観的な指標 (a)情報保障の必要な授業にノートテイカーを3人ずつ配置する。 (b)2020年度及び2021年度新入生用の「TKUベーシックカブック」を改訂し、発行する。</p>	<p>&lt;①2019年度の取り組みとその成果&gt; ◆聴覚障がい学生2名にノートテイカーを配置した。2019年度1学期9科目延べ26名、2学期6科目延べ17名。ノートテイク講習会1回開催。(2018年度1学期17科目延べ50名、2学期18科目延べ54名。手話通訳1学期に計2回4名配置。ノートテイク講習会2回、パソコンテイク講習会1回開催)</p> <p>◆学生のコミュニケーション力向上に関する講座では、例年開催している「コミュニカアップ講座」(2回)、「グループディスカッション講座」(8回)、「日本手話入門講座」(1回)、「メールのマナー講座」(4回)を実施した。</p> <p>◆英語学習アドバイザーによる講座では、コトパティオと6つのランチタイム講座をコラボした。コトパティオのネイティブスタッフがランチタイム講座に来て、参加学生とロールプレイをしたり、講座で学んだ内容をコトパティオで実践しようと呼びかけた。参加者のなかにはコトパティオを初めて来訪する学生もあり、今後も継続していく予定である。コラボ企画講座「外国人おもてなしEIGOボランティア」、「接客の英会話」、「伝わりやすい発音を練習する講座」、「ハッピークリスマス～アメリカンポップスで英語を学ぶ」、「旅エイゴ」(2回)</p> <p>&lt;②2019年度の取り組み後の問題点(課題)&gt; ノートテイクを必要とする学生の単位修得が順調なため、ノートテイカーを配置する授業数が減ったが、新たに対応が必要な学生が入学してきた場合は、ノートテイカーの人材不足により、理想的な配置(各科目3人)が困難になる可能性がある。</p>	<p>A</p>	<p>◆「学習センターイベント報告(2019年度)」【資料2】</p>	<p>事業計画に基づきPDCAを回してください。</p>